

《小学校・国語》

I 学力診断テストの概要

1 「群馬県教育課程実施状況調査」等に見られる本県児童生徒の課題

(1) 「群馬県教育課程実施状況調査」の結果について

「群馬県教育課程実施状況調査」（平成16年5月）では、本県の児童の通過率はすべての領域・言語事項において全国平均を上回っている。この内、「C 読むこと」の通過率（65.4）は、全国平均（62.0）を上回っているが、設定通過率（77.5）を大きく下回っている。したがって、「C 読むこと」に関する詳細な課題分析が必要である。

(2) 読解力の向上を図る観点から

これまでの実際の授業現場では、文学的な文章の指導が説明的な文章の指導に比べて時間を多くかけて行われていた。また、文学的な文章の指導では、多様な読解指導が工夫されてきたが、説明的な文章の指導ではやや画一的な事実確認のみの指導が多かった。「PISA型読解力」の向上の観点からも、説明的な文章を読んで思考を深め、広げるような指導方法の改善が必要である。

2 出題領域と各設問の設定意図

領域	設問	各設問の設定意図
読むこと・説明的な文章の読解	㊦	初読段階で、どの程度に概要を把握できているかを確認する。目的を意識した読み取りに関するつまずきを発見する。
	C	(1) 初読段階で、どの程度に結論の内容を見通せているかを確認する。及び、問題提起、説明、結論・主張のような論理的展開を意識できているかを問う。
		(2)(3) 展開に沿った内容の把握とともに、中心的な話題に着目し段落のまとまりを考えるとどの程度できているかを問うとともに、自らの考えを理由と一緒に説明できるかを問う。
		(4) 全体の内容を理解する上での重要語句に関して、そのことに関する具体的な説明をどの程度正確に読み取れているかを問う。
	㊦	(5) 説明の内容について、身近な生活に引き付けた自分なりの解釈をどの程度できているかを問う。
		(6) 前後の文脈を参考に図表を読み取り、その内容を文章にまとめることがどの程度できるかを問う。
		(7) 指示語の働きを理解し、文相互の関係をとらえて、段落の要点をどの程度とらえられるかを問う。
	㊦	要旨を把握する上での重要語句に関して、筆者の考えをどの程度とらえられるかを問う。
㊦	(1)(2) 読み取った内容から、発展的な新たな問題点に気付くとともに、そのことについての具体的な内容について表現できるかを問う。	

【資料】《問題文》

- ① 人間はかしこい動物です。いつでも自分たちの生活を便利にしたいと考え、多くのことを実現してきました。農耕を発明し、文明をつくり、産業革命を開始しました。長生きになり、人口もふえました。人びとの生活が便利になるスピードも、以前とはくらべものになりません。しかし、地球環境にかかる負荷も大きくなってきました。このまま、わたしたちが望む生活をつづけると、地球環境のバランスがくずれ、結局はわたしたちが生きることさえむずかしくなるかもしれません。
 - ② 地球環境について考えるとき、地球に生きるすべての人間が、どのように暮らしているかを理解することが大事です。日本のような先進国にすむわたしたちは、途上国のことをもっと知らなくてはなりません。
 - ③ 地球人口の八〇パーセント以上が途上国にすんでいます。二〇五〇年には、地球人口の九〇パーセント近くが途上国の住民になるのです。それに、途上国の土地は地球の陸地の六〇パーセント以上をしめています。
 - ④ ところが、多くの途上国には、食べるものが不足し感染症^{※4}におびやかされる人びとも、病気にかかってもじゅうぶんな医療^{※5}を受けられない人びとも、学校にいけない子どもたちもたくさんいるのです。そのうえ、先進国の人びとは、途上国でつくられる木材、鉱物、食料も利用しながら、豊かな生活をおくっています。
 - ⑤ 途上国と先進国の人びとの生活が大きくことなることは、資源^{※6}をつかう量からもはっきりしています。たとえば、ある国の生活を地球上のすべての人びとがつづけるとして、そのときにつかう資源をまかなうに必要な地球の数を考えてみましょう。下の図に見られるように、全員がバン格拉デシュ人とおなじ生活をすれば、必要な資源は地球のおよそ四分の一でまかなえます。ところが、
- A
- ⑥ 先進国では、今よりも資源の消費量をへらすよう努力しなくてはなりません。一方の途上国では、人びとが環境と調和しながら、よりよい生活ができるようになることが、地球を大事にするうえでかせがないのです。

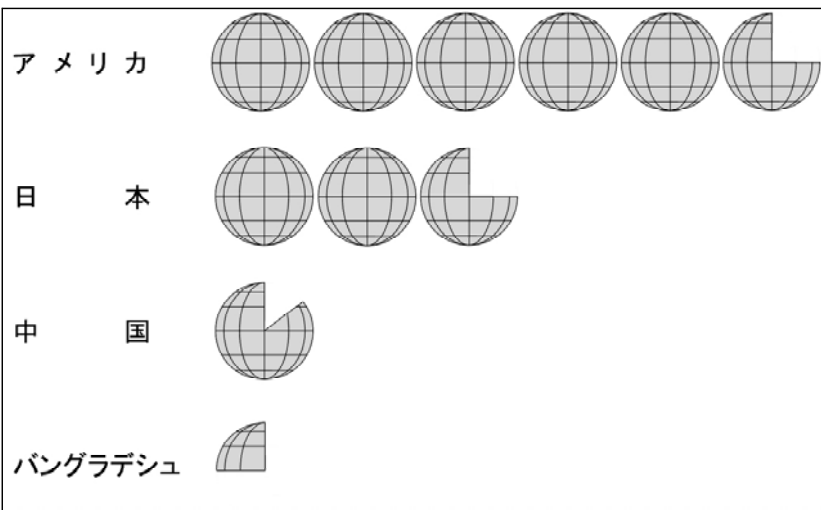


図 アメリカ人、日本人、中国人、バン格拉デシュ人の生活を、地球上のすべての人びとがつづけるとして、そのときにつかう資源をまかなうのに必要な地球の数。

- ⑦ 地球環境を考えるとき、もうひとつ大事なことがあります。それは、これから生まれてくる人びとのことです。わたしたちが資源をつかいすぎたり、環境をわるくしすぎると、あとから生まれてくる人びとが生きるのはむずかしくなります。現在だけでなく、将来の地球環境も守るようにしなくてはなりません。
- ⑧ 人間はかしこい動物です。今まで、かしこいことを便利な生活を追い求めることに向けてきました。しかし、これからは地球環境と調和することに向けてする必要があります。地球に生きるすべての人びと、さらにはあとで生まれてくる人びとのことも考えたものです。それが、地球を大事にすることなのです。

大塚柳太郎著 「自然とともに」地球に生きる人間
— その歩みと現在 — より

- ※1 負荷 負担となる仕事。重荷になること。
- ※2 先進国 文化・経済・技術などが先に進んでいる国。
- ※3 途上国 経済や産業などが、発展のとちゅうにある国。

Ⅱ 各設問における分析結果と授業改善のポイント

課題1 説明的な文章の学習に対する興味・関心を高めるとともに、児童が目的意識をもって学習に取り組めるような工夫を行う。

1 「児童生徒質問紙調査」と「学校調査」の結果…説明的な文章の学習に関する児童の意識（表1）

国語の学習で楽しいと感じるのは？（複数選択）	%
1: 物語文の読み取り	42.7
2: 詩を読んだり作ったりする	43.3
3: 説明文の読み取り	12.3
4: 作文を書く	26.1
5: 話し合い（討論会など）	36.9
6: 意見発表（スピーチなど）	16.7
7: 漢字の学習	49.4
8: 言葉のきまり（文法）の学習	21.9

（表2）

説明文の読み取りを行うことは好きですか	%
1: 好き	9.1
2: どちらかという好き	29.7
3: あまり好きではない	46.9
4: 好きではない	12.2
5: 無回答	2.0

（表3）

説明的な文章の 読書機会 (%)	朝読書 等、読 書の時 間	総合的 な学習 の時間	社会や 理科の 学習	休日等 に家庭 で
よく読む	15.8	20.8	16.4	14.1
ときどき読む	28.5	38.8	35.4	21.6
あまり読まない	29.2	25.2	28.9	24.7
全然読まない	18.5	7.4	10.1	31.6
無回答	8.1	7.9	9.1	8.1

○ 表1は、国語科の学習におけるそれぞれの内容について、「楽しいと感じるか」を質問したものであり、表2は説明的な文章の読解自体が好きかどうかを質問したものである。

○ 表1から分かるように、国語科の多様な学習活動の中で説明的な文章の学習を「楽しい」と感じる児童は設定選択肢の中で最低の数値である。また、表2のように説明的な文章の読解については、およそ60%の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と回答している。しかし、見方を変えると、学習では楽しいと感じる児童が少ないにもかかわらず、約40%の児童は「好き」「どちらかといえば好き」と回答していることになる。

○ 表3は説明的な文章を読む機会について質問したものであるが、家庭では読まないことの方が多く回答している。しかし、学校においては、特に総合的な学習の時間や社会科・理科等の学習を中心に読む機会をもっているようである。この中で、自由に本を選択できる「朝読書等、読書の時間」に「よく」「ときどき」を合わせると44.3%の児童が「読む」と回答している。

○ これらのことから、児童は、説明的な文章自体に対して拒否反応を示しているのではなく、説明的な文章の読解に関する学習に対して楽しさや魅力を感じていない、という実態が見て取れる。

2 授業改善のポイント

- 説明的な文章の授業は、文章の内容を読み味わうことよりも、文章の筋道や書き表し方の学習が中心となってしまうことが多かった。そこで、説明的な文章が本来もっている内容のおもしろさ・楽しさを味わえるよう、指導計画及び学習活動を工夫する。
- 児童に、なぜその文章を授業で読むのか、という目的意識を明確に自覚させるための学習過程を工夫したり、文章の中で示される諸事象が自分たちの生活とどのように関連しているか、といったことを考えられる学習活動を工夫したりする。

課題2 初読段階において、その文章の読み取りを行うための課題をつかんで学習の目的意識を明確にもてるようにする。

1 具体的な問題と反応率

□ この文章で、筆者はどのようなことを読者に伝えようとしていると思いますか。自分なりに大事だと思うことを、一つ～三つ（最高三つ）次の□の中に書きなさい。できるだけ短い文で書きなさい。

*はじめに教師が範読を1度行い、その後に児童が読む時間を5分間とった。

<解答類型と反応率>

解答類型	%
類型1：中心的な話題を3つ指摘できている	5.1
類型2：中心的な話題を2つ、付随的な話題を1つ指摘できている	3.1
類型3：中心的な話題を2つ指摘できている	16.2
類型4：中心的な話題を1つ、付随的な話題を2つ指摘できている	1.3
類型5：中心的な話題を1つ指摘できている	37.6
類型9：その他の解答	36.6
類型0：無解答	0.0

○完全正答は「類型1」であるが、「類型2・3」までは正答、「類型4・5」は準正答と判断した。

□- (1) この文章には、筆者から読者への「問いかけ」(問題提起)の文がありません。そこで、□段落の最後に次の(ア)～(エ)の文のどれかを「問いかけ」の文として付け加えたいと思います。ふさわしいと思うものを(ア)～(エ)○の中から一つ選び、下の□の中に記号で答えなさい。

- (ア) それでは、わたくしたちがさらに便利な生活をしていくために大事なことは、どのようなことでしょうか。
- (イ) それでは、わたくしたちが地球環境を考えるとときに大事なことは、どのようなことでしょうか。
- (ウ) それでは、わたくしたちが地球環境を変えていくときに大事なことは、どのようなことでしょうか。
- (エ) それでは、わたくしたちが地球環境にかかる負荷としては、どのようなものがあるのでしょうか。

解答類型		%
類型1	ア	4.3
類型2	イ(正答)	48.1
類型3	ウ	28.4
類型4	エ	18.5
類型9		0.4
類型0		0.3

2 課題分析結果

(1) □について

- この設問は、説明的な文章を初めて読んだ後で、児童がどの程度に概要を把握したり、中心的な話題やキーワードに着目したりできたりするかを問う問題である。解答類型では、文章全体の内容を構成している中心的な内容について、いくつ指摘できているかで評価するようにした。
- <解答類型と反応率>の表のように、筆者が述べようとしている中心的な話題を2～3指摘できた児童は、24.4%で、一つでも指摘できた児童と合わせると63.3%であった。

(2) □- (1)について

- この設問は、本文に欠落している読者への問題提起の文を考えさせるものであるが、同時に児童がこの文章を読むための課題意識を的確にもっているかを問う問題でもある。なおこの設問に取り組むに当たっては、次の二つの方法がある。

①結論部分に着目しながら、文章全体における筆者の主張を見付けること

②文章のいたるところで使われている「地球環境」というキーワードに着目すること

- 48.1%の児童は正答できていた。誤答の内「類型3」の28.4%と「類型4」の18.5%の児童は「地球環境」というキーワードに着目したものの、それにかかわる全体の内容における位置付けや結論部分との関連を考慮ができなかったものと見られる。
- (3) この2つの設問に関する結果から分かるように、初めて読む文章であっても6年生の児童は、ある程度概要を把握し、その中で何がキーワードであるかということに着目することができる。しかし、その文章を読むための課題意識となり得ているかが問題である。
- (4) 「児童生徒質問紙調査」において、「これまでの説明文の学習で、特に印象に残っている学習活動はどのようなことですか」という質問（選択項目は全13項目、複数選択）中、3つの項目に対する児童の反応は次のようである。

選 択 項 目	%
①初めて文章を読んだ後で、感想を発表したり書いたりする	36.3
②くわしい読み取りの学習に入る前に、だいたいどのような内容が書いてあるかみんなで話し合う	18.6
③くわしい読み取りの学習に入る前に、どのようなことを読み取ったらよいか(課題)を考える	23.2

- (5) 「学校調査」における「説明的な文章の学習では、学習課題はどのように設定していましたか」という問いに対して、教師の反応は次のようである。

選 択 項 目	%
1：目標に基づいて、主に教師が設定していた	57.8
2：児童生徒の興味・関心に基づいて、主に児童生徒が設定していた	2.4
3：児童生徒の興味・関心に基づいて、主に教師と児童生徒が設定していた	39.8
4：特に学習課題の設定は行っていなかった	0.0
5：無回答	0.0

- (6) 以上のように、学習課題の設定は、やはり教師主導で行っているという現実がある。児童の側にしても、詳細な読解に入る前段階での本文の内容確認等はほとんど印象に残っていない、という課題がみられる。一つの文章と出会ったとき、児童がそこからどのような課題意識をもつかということが、学習の目的意識とかかわり、関心・意欲を引き出すことになる。

3 授業改善のポイント

- 初読段階で概要や筆者の意図をある程度把握して、その後の読解に関する方向性に児童が気づき、目的意識をもって学習をスタートできるような指導過程を全学年で工夫する。中学年までは教師主導の要素が強くてもよいが、高学年ではできる限り児童自身の課題意識を生かすようにする。
- 指導過程の工夫として、課題把握の段階で問題提起を押さえるとともに、その問題提起に対する答えを見付け、文章全体の見通しをもてるようにする。問題提起の文がない場合には、題名等から結論部分を見付けていくような工夫を行う。

課題3 文章の要旨にかかわるキーワード・キーセンテンスを見付けられるようにするとともに、文脈に沿ってそれらの関係性を読み取ったり、文章をいくつかのまとまりに分けたりする学習活動を工夫する。

課題3-1 …文章を二つのまとまりに分け、その理由を明確にすること

1 具体的な問題と反応率

☐- (2) ㉔段落～㉕段落の内容を大きく二つに分けるとすると、どこで分けますか。次の(ア)～(オ)の分け方の中から、あなたの考えにあてはまるものを一つ選び、下の☐の中に記号で答えなさい。

- (ア) ㉔段落と㉕段落の間 (イ) ㉔段落と㉖段落の間 (ウ) ㉔段落と㉗段落の間
 (エ) ㉕段落と㉖段落の間 (オ) ㉕段落と㉗段落の間

<解答類型と反応率>

類型	ア	イ	ウ	エ	オ(正答)	その他	無解答
%	11.3	11.4	27.5	15.3	33.3	0.3	1.0

☐- (3) (2)のように考えた理由を、あなたが注目した文章中の言葉をつかって、次の☐の中に書きなさい。

<解答類型と反応率>

類型	1(正答)	2(準)	3	4(*)	5(*)	6(*)	7(*)	8	9	0
%	7.3	10.6	13.5	2.2	1.3	4.7	2.5	47.1	3.5	7.2

☐- (4) 筆者は㉕段落の「地球に生きるすべての人間」を、このあとの説明の中で二つに分けています。どのように分けていますか。それぞれを、次の☐の中に書きなさい。

<解答類型と反応率>

類型	1	2	3	4	5	9	0
%	19.7	27.9	1.6	0.4	1.7	41.8	6.8

2 課題分析結果

(1) ☐- (2)について

- この設問では、㉔～㉕の各段落相互の内容的な関連を読み取る力と同時に、全体的な大きな論理展開を把握する力が重要になってくる。この場合、㉔段落が「地球環境について考えるとき」で始まり、「先進国にすむわたくしたちは、途上国のことをもっと知らなくてはなりません」と提案していることと、その内容が㉕段落まで継続していることに気付く必要がある。また、㉕段落が、「地球環境を考えるとき、もうひとつ大事なことは……」と展開されていることに気付くことがポイントである。
- 類型(ウ)の「㉔段落と㉕段落の間」を選択した児童が27.5%と比較的多かったが、これは、㉕段落が途上国と先進国の生活そのものについて述べているのに対して、㉔段落では双方の資源を使う量に話題が展開されたことと判断したためと推測される。いずれにしても、「無解答」が1.0%と少なく、児童は段落相互の関連性から段落の切れ目に関して何らかの判断ができたことと考える。

(2) ㉒－(3)について

- この設問は、㉒－(2)で分けた理由を答えるものである。ここでは、単に段落の切れ目を指摘するだけでなく、その根拠となる考えを明確にできているかを確認することを目的としている。従って、段落の分け方が正答以外を選択していたとしても、その根拠を表現できているかを確認することもねらっている。
- ここでの正答及び準正答の割合は17.9%である。これは、㉒－(2)で正答の(オ)を選択できた児童であり、正答等の割合は次のようである。

完全正答…22.0%、準正答…31.9%、誤答…40.5%、無解答…5.6%

- 類型4（(2)で(ア)を選択）～7（(2)で(エ)を選択）の児童は、ほとんどがその根拠となる事柄を記述できていなかった。
- (3) ㉒－(4)の結果から、文章中のキーワード・キーセンテンスにどの程度着目できるかを見ることができる。この設問では、47.6%の児童が正答できた。41.8%の児童は枠内に抜き出す部分によって類型に当てはまらず、「その他」に判定されたために正答の割合が低くなっているが、児童は狭い範囲ならば比較的キーワード・キーセンテンスに気付いていると思われる。
- (4) 「児童生徒質問紙調査」において、「これまでの説明文の学習で、特に印象に残っている学習活動はどのようなことですか」という質問（選択項目は全13項目、複数選択）中「④小さい段落（形式段落）をいくつかの大きな段落（意味段落）にまとめる」を選択した児童は42%であり、半数近くの児童が段落分けについては強い印象をもっている。また、「学校調査」において、「説明的な文章の学習では、接続語や指示語などを手がかりに段落相互の関係をとらえる学習活動を行っていましたか」という質問に対して、90%以上の教師が「行っていた・どちらかといえば行っていた」と回答している。
- (5) 以上の結果から、次のような児童の姿を見て取れる。
- 前後の段落の関係については、内容的な対比や接続関係に着目して考えることができる。しかし、文章全体の論理展開にまでは注意を払うことができない児童が多い。
 - 各段落の文章を読んだ印象や、キーワード・キーセンテンスに気付いて段落を分けたとしても、なぜそのような分け方をしたのか、自分の考えを表現できない。

3 授業改善のポイント

- 要旨にかかわるキーワードやキーセンテンスを確実に把握するとともに、常に文章全体の内容を俯瞰ふかんするような読み方を意識し、文章の論理的な展開がどのように行われているかをとらえて、段落相互の関連を考えさせる指導を工夫する。
- なぜそのようなまとまりとなるのか、その理由について表現できるようにするために、学級全体や小集団での話し合いの場を必ず設けたり、考えをまとめるための学習プリントを工夫したりする。

課題 3-2…文章全体を通じた要旨の把握の状況の確認

1 具体的な問題と反応率

三 ㊦段落と㊦段落は「人間はかしこい動物です。」という同じ文で始まっています。筆者は、人間の「かしこさ」についてどのような考えをもっていると思いますか。ふさわしいと思うものを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、下の□の中に記号で答えなさい。

<解答類型と反応率>

- (ア) 人間の「かしこさ」は、いろいろな面で便利で豊かな生活をつくりだしてきた。これからは、すべての人がもっとよりよい生活ができるように努力すべきである。
- (イ) 人間の「かしこさ」は、国や地域によってまちがった使い方をしているところがある。これからは、すべての人が正しくつかえるように努力すべきである。
- (ウ) 人間の「かしこさ」は、今まで生活を便利にすることだけにつかわれてきた。これからは、すべての人がもっと地球環境のためにつかうよう努力すべきである。
- (エ) 人間の「かしこさ」は、今まで先進国の資源の消費にばかりつかわれてきた。これからは、すべての人が途上国を発展させることも考えて開発を進めるべきである。

	類型	正答	%
1	(ア)		18.7
2	(イ)		6.9
3	(ウ)	◎	64.6
4	(エ)		8.1
9	その他		0.1
0	無解答		1.7

2 課題分析結果

- (1) この設問は、この文章全体の要旨の把握に関する問題である。正答率は64.6%であり、比較的高かった。この問題の場合には、選択肢に示された各文の読み取りがポイントになる。つまり、それぞれの文の中から本文と重なるキーワード（ここでは、「地球環境」）に着目できるかどうか、正答の鍵となる。18.7%の児童は(ア)を選択してしまったが、この場合は㊦段落や㊦・㊦段落の中に多く出てくる「生活」や㊦段落の「よりよい生活」に着目してしまったことが原因と思われる。
- (2) 「児童生徒質問紙調査」において、「これまでの説明文の学習で、特に印象に残っている学習活動はどのようなことですか」という質問（選択項目は全13項目、複数選択）の中で、「文章の要旨についてみんなで話し合う」という項目は31.8%の児童が選択しており、「学校調査」でも要旨の把握には各教師が力を入れている様子がうかがえる。
- (3) □- (2)・(3) 及び□のそれぞれの結果から、形式段落の要点を把握した上で、接続語や指示語などを手がかりに段落相互の関係をとらえることは、実際にかなり丁寧に行われているようである。しかし、その際に文章全体の内容的な関連性や論理展開について考えるという学習活動が不十分であることが予想される。また、なぜそのように段落をまとめるのか、あるいはなぜそこで分けるのか、といったことについての理由を学級で話し合ったり学習プリントに表現したりする学習が十分に行われていないことがうかがえる。

3 授業改善のポイント

- 学級全体や小グループで、それまでの読み取りの内容を踏まえて、文章の要旨について話し合いを行う。その際、単に書かれていた事実の確認に終始することなく、筆者の見方・考え方に関する意見交換や、そのことに対する各自の考え方を深めるための機会を設けるなどの工夫をする。

課題4 文章の内容と生活経験、他教科等の学習内容との関連を図って読み取りの内容の充実を図る。

1 具体的な問題と反応率

□－(5) 四段落の中で筆者は、「そのうえ、先進国の人びとは、途上国でつくられる木材、鉱物、食料も利用しながら、豊かな生活をおくっています。」と述べています。この内容にかかわる具体的な例を、身の回りの生活の中からさがして、次の□の中の一つ書きなさい。

<解答類型と反応率>

条 件		解 答 類 型	正 答	%
① 具体的な途上国と判断できる国や地域を取り上げている。	1	①+③+⑤	◎	1.4
② 途上国とは判断しにくい(判断は、採点者に一任)国や地域を取り上げているor一般的・包括的な国や地域が書いてある。	2	②+③+⑤	○	1.3
③ 具体的な資源(木材、鉱物、食料など)を取り上げている。	3	①or②+③or④+ ⑤	○	2.3
④ 一般的・包括的な資源が書いてある。	4	①or②+③or④		7.2
⑤ 自分たちの生活が豊かに(便利に)なっている状況についての記述がある。	9	その他		56.0
	0	無解答		31.7

2 課題分析結果

- (1) この設問は、文章から読み取った事柄について、どの程度自分たちの生活と関連付けて理解することができるかを問う問題である。書かれていることの実事認識だけでなく、生活経験や他教科等の学習内容との関連を図って理解をより深めたり、書かれている筆者の意見について評価をしたりする資質・能力にかかわる問題である。
- (2) この設問の判定は上記の各条件により行ったが、正答及び準正答に相当する児童は9%に過ぎず、56%の児童が「その他」の判定となってしまった。これは、問題の意図を十分に読み取ることができず、全く関係ない事柄を書き出している児童が多かったことによると思われる。
- (3) 「児童生徒質問紙調査」において、「これまでの説明文の学習で、特に印象に残っている学習活動はどのようなことですか」という質問(選択項目は全13項目、複数選択)中、「文章の中で説明されている事柄について、他の教科の学習や自分たちの生活と関連させて考える」を選択した児童は18.1%であった。ただし、「学校調査」では「説明的な文章の学習では、教材文の内容と日常生活での体験などとを関連させた学習活動を行っていましたか」という質問に対して、54%の教師が「行っていた・どちらかといえは行っていた」と回答している。

3 授業改善のポイント

○ 読み取った事柄にかかわる生活事象や他教科等での学習内容について、児童相互の情報交換を促す問いかけを意図的に行ったり、それらを整理するためのワークシートを準備したりする。また、必要に応じて教師が関連した資料を用意して児童に示しながら学習を進めるなどの工夫をする。

課題5 叙述内容と資料としてのグラフや図表・写真等との関連性を読み取る学習活動を工夫する。

1 具体的な問題と反応率

□－(6) 図段落の□Aには、問題文中の図から読み取れることが書かれています。この□Aにあてはまる文を、図やそれまでの文章の内容を参考にしながら、次の□の中に書きなさい。

<解答類型と反応率>

条 件	解 答 類 型	正 答	%
①アメリカ（人）あるいは日本（人）を取り上げ、それぞれの国に該当する具体的な地球の個数について触れている。	1 ①＋③	◎	9.4
	2 ②＋③		6.1
②アメリカ（人）あるいは日本（人）を取り上げているが、具体的な地球の個数については触れていない。	3 ① or ②		14.8
	4 中国に着目		0.8
③「ところが」に着目して、逆説的な文脈で文を書いている。	5 図に触れていない		11.3
	9 その他		27.6
	0 無解答		30.0

2 課題分析結果

- (1) この設問は、「段落全体でどのような内容について述べているかを把握すること」「図に示された地球の個数と図の説明について読み取り理解すること」「図から読み取った内容を直前までの文脈に合わせて文を書くこと」「ところが」という逆接の接続詞に留意して文を書くこと」の四つの要素を踏まえて解答できた児童が、完全正答の類型1になっている。
- (2) この設問も類型9「その他」と類型0「無解答」の割合が高かったが、このような問題に慣れていなかったことや、図表で表されている情報と文章で説明されている事柄とを関連付けて読み取りを行う経験が少なかったことなどが原因と考えられる。
- (3) 「児童生徒質問紙調査」において、読み取った内容のまとめをどのように行っているかを質問したところ、多くの児童は板書内容をノート等に写すことは行っている(61.9%)が、

1:ノートや学習プリントに、先生が黒板に書いてくれたものを写すことが多い。	61.9	児童が自らの気づきを文にまとめるといふ学習経験は少ない(28.3%)ようである。
2:ノートや学習プリントに、先生の板書に自分の考えを加え、自分なりにまとめることが多い。	28.3	
3:学習プリントに印刷された枠の中に重要語句などを入れてまとめることが多い。	9.8	
4:ノートや学習プリントにまとめを行うことはあまりない。	5.1	

3 授業改善のポイント

- 本文の内容に合わせて掲載されているグラフ、図表、写真等の資料について、それぞれの内容を読み取るとともに、本文の内容と関連付けて考える学習活動を工夫する。
- 読み取った事柄を板書し、それを単にノートに写すだけの学習は避ける。文章や図表等を読み取って分かったことや気付いたこと、疑問に思ったことをなどを常に文章で表現するような学習経験が必要である。

課題6 段落の中心文あるいは要点の取り出しと、内容の要約に関する学習を工夫する。

1 具体的な問題と反応率

□－(7) □段落の中で筆者が読者に伝えようとしていることを四十字以内でまとめ、次の□の中を書きなさい。そのとき、最初のマスから書き出します。また、句読点(「。」、「、」)は一字分とします。
 <解答類型と反応率>

条 件		解 答 類 型	正 答	%
①40文字以内で文章を書いている。	1	①+②+③+④	◎	10.3
②表現上のねじれなどがなく、文として整っている。	2	①+③+④	○	2.1
③第2文の「これから生まれてくる人びと」に着目している。	3	①+②+③or④	*	28.4
④第4文の「将来の地球環境も守る」に着目している。	4	①+②+⑤		4.6
⑤第1文や第3文の中の語句に着目している。	9	その他		22.1
	0	無解答		32.5

2 課題分析結果

(1) この設問は、形式段落の要約に関する問題である。対象となる段落の文章は次に示すように、4文で構成されており、全体で142文字の文章である。この文章を40文字以内でまとめることになる。

ア 地球環境を考えると、もうひとつ大事なことがあります。
 イ それは、これから生まれてくる人びとのことです。
 ウ わたくしたちが資源をつかひすぎたり、環境をわるくしすぎると、あとから生まれてくる人びとが生きるのはむずかしくなります。
 エ 現在だけでなく、将来の地球環境も守るようにしなければなりません。

(2) この設問では、解答類型の条件③と条件④に示したキーワードへの着目が鍵になる。まず、4文の内、要点を把握する上では第2文と第4文とが重要であることに気付く必要がある。この第2文から解答した児童が正答と準正答の12.3%、この2文の内どちらかだけに着目して解答した児童が28.4%であった。

(3) 「その他」の22.1%の児童は条件⑤に該当するケースが多く、「無解答」の32.5%と合わせて、段落を構成する各文の中から内容的に中心となる文を見いだす力が十分に身に付いてないと判断される。ただし、説明的な文章の学習活動についての児童の印象は、文章の要旨について話し合うことや文章を要約することについて比較的高い反応を示している。

3 授業改善のポイント

- 中学年までの段落の要点を把握する学習をより充実させる必要がある。そのためには、指示語や接続語に着目して文相互の関係を考えるとともに、キーワードに着目して中心的話題を短文でまとめる学習プリントや学習活動の工夫を行う。
- 中学年段階においても各形式段落の中だけで中心や要点を考えるのではなく、文章全体の要旨とのかかわりで中心を探すような授業展開を工夫する。
- 国語科の学習だけでなく、他教科や総合的な学習の時間等との関連を図り、図書資料等を使った調べ学習の中でも内容を短い文で要約する活動を行うよう工夫する。

課題7 読み取った内容から、新たに自分なりの問題点を発見し、学習を発展させる工夫をする。

1 具体的な問題と反応率

四 A小学校は、「総合的な学習の時間」で、環境問題を取り上げ、一人一人が自分なりの研究テーマで「調べ学習」を行っています。友達の明さん、道子さん、恵美さん、良夫さんの四人は、それぞれ次の吹き出しのような研究テーマをもっています。

(1) この文章は、明さん、道子さん、恵美さん、良夫さんの四人のうち、だれの「調べ学習」にもっとも役立つと思いますか。四人の中から一人を選び、次の□の中にその友達の名前を書きなさい

<解答類型と反応率>

類型	1(だれかを選択している)	9(その他)	0(無解答)
%	96.6	0.4	3.0

(2) あなたは、(1)で選んだ友達に、この文章をどのように紹介しますか。次の□の中の文に続けて、あなたがすすめたい理由がはっきりわかるように工夫して、紹介の文を書きなさい。

<解答類型と反応率>

条 件	類 型	正 答	%
① (1)において「明」を選択し、日本(人)の資源の消費が多く、地球環境に負荷を与えていることについて言及している。	1 ①+⑤	◎	5.5
	2 ①のみ	○	3.7
② (1)において「道子」を選択し、人間がこれまでの歴史の中で常に環境への負荷となることを考慮しないで、便利な生活を追い求めてきたことについて言及している。	3 ②+⑤	◎	2.7
	4 ②のみ	○	5.6
	5 ③+⑤	◎	2.3
③ (1)において「恵美」を選択し、途上国の人口の多さや、途上国が抱える問題点について言及している。	6 ③のみ	○	6.6
	7 ④+⑤	◎	0.8
④ (1)において「良夫」を選択し、地球の人口の多くが途上国に偏っていることに言及している。	8 ④のみ	○	2.0
	9 その他		50.0
⑤地球環境を守る上で、地球環境と調和することの必要性について言及している。	0 無解答		17.4

2 課題分析結果

(1) この設問は、文章から読み取った内容を基に、そこから自分なりの新たな課題を見付けられるかを問うものである。四- (1)に登場する4人は、それぞれ環境問題に関する個別の研究テーマをもっている。この文章の内容が、この4人のだれのテーマに役立つかを選択させた。その結果、ほとんどの児童がいずれかを選択できている。

(2) 四- (2)は、(1)で選んだ理由を入れてこの文章の紹介文を書かせる問題である。「その他」に該当する児童が50%いたが、これは、このような問題自体に慣れていないこともあり、(1)で対象となる友達を選択しながら、その観点と異なる内容を記述してしまった児童が多かったためと思われる。同様の理由で17.4%の児童が「無解答」であったと思われる。

3 授業改善のポイント

○ 読み取った内容を基に、他教科の学習内容や身近な生活上の問題点と関連させた新たな自分なりの課題をもてるように、学級や小集団で意見交換等をする機会を設定する。